



第1130号

令和7年9月15日発行

目次	
「信州教師塾S」のご案内	2
哲学の道 ご案内	3
中高飯水教育会創立記念式典報告	3
講習・講座参加者の声	4～7
教育研究所だより	8
世界の学校	9
懇談会報告	10
信濃教育博物館だより	11
ホームページPR	12
100年館の絵	12

基礎講座「やってみよう 楽しもう パラスポーツ！」 はじめの一步！パラスポーツが私の世界を広げる



8月6日（水） 長野県障がい者スポーツセンター サンアップル

受講者11名、講師1名、長野県障がい者スポーツ協会パラスポーツ指導員3名、スタッフ4名

さわやかな汗を流した車いすバスケットボール、ボッチャ、フライングディスクの体験講座。車いすバスケのミニゲームでは、初対面の参加者同士が、いつの間にか仲間となって一つのボールを追いかけていた素敵な時間でした。

参加者の感想より

体験してみるとパラスポーツの楽しさが実感でき、大変有意義でした。また、スポーツを通じて、初対面の皆さんと仲良く会話できたのも収穫です。同じ土俵でスタートしてみんなで楽しめるパラスポーツを、もっと身近にしていきたいと思いました。

10月の研修ガイド

14日（火）●文学講演会 ◎上伊那教育会館 ◇「一茶と馬琴の出版事情」堀井正子（近代文学研究家） ☆上伊那教育会 0265-72-3416

15日（水）●第381回諏訪季節大学 ◎岡谷カノラホール ◇「〈弱いロボット〉から考える 人・社会・生きること」岡田美智男（筑紫女学園大学 副学長） ☆諏訪教育会 0266-52-0213

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等（講師名敬称略） ☆連絡先

令和7年度「信州教師塾S」のご案内

「教師塾S」は長年本県教職員としてご活躍された皆様が、定年延長及び再任用後も心身共に健康で信州教育の担い手として活躍していただけるよう、郡市教育会と連携して開設する講座です。

※50歳後半の方対象（61歳以上の方優先）

※両教師力講座ともに締切を9月24日（水）に延長しました。

「教師塾S」in 飯山

来し方を振り返り 未来に向けた英気を養う!!



甘党×辛党全員集合



共 催 中高飯水教育会
期 日 10月4日（土）
開催場所 飯山市

内 容 パティスリーヒラノ・田中屋酒造・懷石割烹「つるの湯」
パティシエが語る人気洋菓子店の秘密
奥信濃の歴史に育まれた蔵元への訪問
「謙信寿司」を始めとする郷土食の賞味

受 講 料 信濃教育会会員：3,000円（参加費無料＋実費3,000円）
会員外：7,000円（参加費1,000円＋実費6,000円）

問 合 せ 総務・会計部（西澤）TEL026-232-2470



「教師塾S」in 上伊那

これも教育の『みそ』なのです

秋風の中、素晴らしい景色を楽しみながらみそ作りを体験し、美しい赤そばの里に癒される一日はいかがですか？

共 催 上伊那教育会
期 日 10月4日（土）
開催場所 上伊那

みそづくり体験館～ハナマルキ～（伊那市）・たけろく おあがり亭（南箕輪村）
・赤そばの里（箕輪町）

内 容 みそづくり体験館見学・みそづくり体験（約2時間）・昼食・赤そばの里見学

受 講 料 信濃教育会会員： 0～500円（参加費無料＋実費0～500円）
会員外：2,700～4,500円（参加費1,000円＋実費1,700～3,500円）

そ の 他 動きやすい服装でご参加ください。エプロン等は体験館でご用意いただけます。

問 合 せ 信濃教育会研究調査部（和田）TEL026-232-2258



詳細はHPをご覧ください。

信濃教育会生涯学習講座

哲学の道

令和7年10月25日(土)

9:10～12:00 (受付8:50～)

信濃教育会生涯学習センター講堂

講演 「西田幾多郎と務台理作—親鸞の信仰をめぐる—」

本年は信州とも関わりの深い西田幾多郎と務台理作を取りあげたいと思います。務台はその主著の一つである『場所の論理学』において、西田の「場所の論理」と仏教で問題にされる仏と衆生との関係を重ねあわせて論じています。そこで論じられた親鸞論は西田の最晩年の「場所的論理と宗教的世界観」に大きな影響を与えました。この両者の関係とあわせて、西田が親鸞の信仰をどのように理解していたかを見るために、1911年(明治44年)に発表された「愚禿親鸞」と題したエッセーを取りあげます。この「愚禿」という二字に親鸞の信仰だけでなく、宗教の本質がもっともよく表現されているというのが西田の考えでした。

(藤田先生からのメッセージより)



講師 藤田 正勝 先生
〈京都大学名誉教授〉



- * 左の二次元コードよりお申し込みください。
- * 電話・FAX・Mailでも受け付けております。
住所・氏名・電話番号をお知らせください。
- * 信濃教育会HPからもお申込み頂けます。
- * 申込締切 令和7年10月17日(金)

藤田先生のご講演は今年度で一区切りとなります。
お誘い合って多くの皆様の受講をお願いします。

＜お問合せ＞

信濃教育会生涯学習センター 〒399-8204 安曇野市豊科高家796-3

TEL 0263-72-9991/026-232-2470 (信濃教育会総務・会計部) FAX 0263-72-9985/Mail center1@shinkyo.or.jp

中高飯水教育会 創立記念式典が開催されました

8月1日(金)、飯水教育会と中野・下高井教育会が統合して中高飯水教育会が創立したことを記念する式典が、中野市の市民会館ソラホールにおいて挙行されました。統合にあたり飯水教育会が中野・下高井教育会に合併されたことにより、飯水教育会は139年間の歴史に幕を降ろしました。しかし、140年目という節目の今年、中高飯水教育会創設の年として力強くスタートすることができました。

式典冒頭、飯山市の江沢岸生市長から、「2つの教育会が一つになることによる、地域の教育の新たな発展を願っている」とのご祝辞をいただきました。信濃教育会の大日方貞一会長からは、「子どもを中心に据え、地域の風土や文化に根差した特色ある教育会事業の展開にご期待申し上げる」との激励をいただきました。初代教育会長となった山口近校長からは、「教育課題に向き合い、子どもたちと先生方のための教育会を創り上げていく」との決意が表明されました。

記念講演では、オーボエ奏者の藤井貴宏氏をお迎えし、ドイツ在住時代の子育て経験に基づくドイツと日本の学校教育についてお聞きしました。「育むこと」と「育てること」の違い、「学校の役割」と「家庭の役割」についてのお話は、滋味あふれる語り口と共に、深く心に刻まれました。

続く演奏会では、藤井氏のほかに3人のパートナーをお迎えし、クラシックの心地よい響きと歌声に聞き入りました。最後に、この日のために準備された中山晋平メドレーが披露されました。会場はしっとりとした高揚感に包まれ、新生教育会のスタートにふさわしい記念式典となりました。



理科観察・実験講習会

【東信ブロック】 8月7日(木) 上田創造館

受講者数 18名

プロジェクトS教材づくりに挑戦！

～溶解度を利用したスノードームの製作+α～

講師の藤森隼一先生が考案されたスノードーム。温度による溶解度の差が大きい塩化アンモニウム水溶液を、花や動物を入れたびんに注ぎます。温度が下がると星型の結晶が析出し始め、やがてミニチュアの世界を雪景色へと変えました。

○安価で身近な素材でできる教材であり、大変参考になりました。現場でも実践してみたいと思います。親子での参加となり、大変有意義な時間となりました。子どもも大変喜んでいました。

○自分ではなかなかやらない実験であり、教室で子どもたちに見せられるお土産もできて良かったです。



【南信ブロック】 8月9日(土) 伊那市長谷

受講者数 16名

アンモナイト探し Geo Tour

～南アルプスの化石産地を訪ねて～

長野県にもアンモナイトの化石が出るのです。急峻な山道を歩くこと15分、斜面に張り付いて無心にハンマーを振るう。やがてアンモナイト発見の歓声が！採集した化石は「戸台の化石保存会」の方に同定していただき、標本として整理しました。

○化石保存会の皆様に貴重な化石や資料を拝見させていただき、お話を伺うことができたこと、ありがたかったです。貴重な戸台層を大切にされてきた歴史に少し触れ、強い願いや思いを感じさせていただいたように思います。戸台方式も納得が行きました。いろいろな人が発掘、発見した化石がやがて貴重な発見につながるのかなあと思いました。



【中信ブロック】 7月12日(土) 乗鞍岳周辺

受講者数 25名

地質探偵ハラヤマとGO！

～乗鞍探検隊～

地質探偵 原山智先生の今年のターゲットは、乗鞍岳です。雪渓を滑るスキーヤーに目を止め、可憐な高山の花に癒されながら、権現池まで登りました。途中、火山群の成り立ちやパン皮状火山弾の説明に耳を傾け、3000m級の雄大な景色を満喫することができました。

○乗鞍の成り立ちを中心に原山先生から多くのことを教えていただきました。焼岳、美ヶ原、乗鞍と3回参加させていただいていますが、発見や新たに知ることも多く、いつも新鮮な気持ちで学ばせていただいています。学校関係者以外の方と共に学び合う機会にもなっていて、大変ありがたいです。



【北信ブロック】 7月26日(土) JAXA 宇宙教育センター&信濃教育会 受講者数 26名

JAXA 宇宙教育センター連携講座

～宇宙を教材にした授業の創造～

この講座は、「JAXA の教員向け研修」に応募し選考され実現したものです。松原理先生のご指導のもと、理科という窓口に限定することなく、「宇宙で教育する」ことについて、広い視野をもって学び合うことができました。プログラムの中でも、一番盛り上がったのは気球作りでした。子どもたちの夢を託して、天井高く舞い上がりました。

○宇宙は未知なことが多いが、宇宙を探求していくことは楽しい。その最前線で活躍されている方から教育という分野でどのように宇宙を学び興味を持たせていくかについて知ることができました。

○自分のコミュニケーション力について振り返ることができる図形の配置の伝達実習は、自分のクラスでもやってみたいと思いました。

○特別支援学級の自主活動でも使えるようなアイデアをたくさん学ぶことができました。

○「宇宙教育」について見方を変えることができました。信教でないとできない講座でした。



見どころ発見！ALT と別所散歩

ピースサインは仲良くなった印！

コミュニケーションをとりながら1日楽しみました！

8月1日(金) 安楽寺(座禅)、常楽寺・別所神社・北向観音堂(スタンプラリー)

受講者 12名、ALT 5名

座禅体験はとても刺激的な体験で、瞑想はリフレッシュにぴったりでした。英語が得意、苦手は関係なく、心でコミュニケーションを楽しむことができ、有意義な1日になりました。

○初めて会う先生方と初めての経験を普段慣れない英語で過ごすのはドキドキしましたが、とても充実した1日になりました。大切なのは「伝えようとする心」と「しっかり聞こうとする力」だと改めて学びました。よい夏休みになりました。

○初めての座禅体験でとてもリフレッシュできました。暑かったのですが行ったことのなかったお寺も行くことができ、風景も楽しめました。ALT も気さくに話しかけてくれて久々に英会話もできてよかったです。



一から学ぶ書写

授業ですぐに役立つ書写指導 基礎からその活用まで楽しく学びました

8月5日(火) 信濃教育会館講堂

受講者数 21名

実際の授業で役立てられる書写指導について学びました。講師の市澤静山先生、坂田和弥先生、小池勲先生には、毛筆書写から硬筆書写まで、受講者の幅広いニーズに対応した指導をしていただきました。ゆったりとした時間が流れていました。

○自分の字に向き合い、丁寧にアドバイスしていただける機会はとても貴重でした。始筆、終筆や運筆方法などに加え、字のバランスで注意すべき点を明確に示していただいたおかげで、ポイントを意識して書くことができました。子どもたちに指導する際に生かしていきたいと思います。

○「一から学ぶ～」「基礎から～」「書写指導が苦手な～」といった講座案内の言葉で、安心して受講することができました。初任のころ市澤静山先生の指導を受けたことがあります。楽しみにしてきました。一日たっぷりと指導していただき大変贅沢な時間でした。



美しさを追求する3日間

自分が感じる「美しさ」だけを見つめて描く！

8月6日(水) 7日(木) 8日(金) 信濃教育会館講堂

受講者数 25名

講師に上田秀洋先生を迎えて3年目。20代から60代までの幅広い年代の受講者が集まり、自分自身の中の「美しさ」に向き合いました。木炭デッサンや水彩、油彩、と表現方法も多岐にわたり、お互いに刺激を受けながらの素敵な3日間でした。

○初めて参加させていただきましたが、素晴らしいモデルさんを迎え、とても楽しく描かせていただきました。講師の上田先生には、的確なご指導をいただきました。光のあたり方、重心のかけ方、バックの描き方など、自分のデッサンのよさや改良点を再確認させていただきました。

○「美しいものしか描かない」なんて、私にはまだまだ難しいですが、上田先生の美学の一部を知ることができて、大変勉強になりました。昨年よりも会場を明るくしていただくことができて、とても快適に3日間の制作ができました。夏休みに行われるこの会のおかげで、2学期からの授業にも前向きに取り組むことができます。最高の会です。



信濃の自然めぐり (木曽)

森林の中で五感を使つての講習

～知識だけではなく心身ともにリフレッシュ～

8月6日(水) 赤沢自然休養林

受講者数 18名

森林浴・森林セラピーをととして、植物の生態や自然林の活用や歴史と文化について知見を広めることができました。

○涼を求めて参加しましたが、木漏れ日や川の水の音に心身ともに癒され、森林浴の効果を実感しました。また、植物の逞しく生きる知恵や見事な株の御神木の話に、木曽の森の豊かさに感動し、自然保護の大切さを再確認しました。

○気になつていても、ふだんなかなか行けない場所でリフレッシュしました。ガイドさんのお話も、生で聞けて赤沢の植物や自然にも興味をもちました。半日あっという間でした。参加者の皆さんとも植物を通して交流できて楽しかったです。自力で赤沢まで行きましたが、夏休みなら参加しやすくて良かったです。



信濃の自然めぐり (小諸)

浅間パノラマトレイル ～清涼な空気を満喫し、自然界の営みを学ぶ～

8月7日(木) 安藤百福記念アウトドアアクティビティセンターとその周辺

受講者数 14名

浅間山や千曲川を望む里山で、講師の井上基先生の楽しいお話とともに、自然界の豊かさを学びました。日常の風景の中にたくさんの発見と驚きがあり、清涼な空気の中でリフレッシュする機会となりました。

○講師の井上先生のお話は大変興味深く、普段見過ごしている植物の見方や不思議さを教えていただき感激しました。お話がとてもお上手で引き込まれました。あっという間に2時間が経ち、もっと聞いてみたいという気持ちになりました。氷風穴の体験は毎日の暑さから逃れホッとするとともに、自然の偉大さやそれをうまく使っていた人々の素晴らしさを感じ、もう少し詳しく知りたいと思いました。

○里山の自然に触れる視点について、体験を通して研修することができました。雨天ではありましたが、それも自然のことですので、学校現場でも雨具を着て屋外に出ることを積極的に考える視点ももてました。



令和7年度 教育研究所研究発表会を終えて

- 対面開催① 6月14日(土) 上伊那教育会館(いなっせ)
 ○対面開催② 7月12日(土) 信濃教育会館
 ○オンライン開催 ①6月17日(火) ②6月26日(木) ③7月1日(火)
 ④7月26日(土)

今年度は、新たに南信地区の上伊那教育会館での開催、また、昨年に引き続き先生方が参加しやすい平日夕方1時間のオンライン開催をしました。職員研修として学校単位で参加いただいた学校もあり、若い方からベテランまで、発表をきっかけに熱心な協議が行われました。

参加者の声(分科会アンケートより)

- 子どもの姿を通して、先生方がどのように子どもたちに寄り添い、かかわっているかが伝わり感動した。「子どもの姿から感じることで分かっていく」という言葉が印象深かった。
 ○子ども主体を考えるためには、教師も主体でなければならないと思いました。子どもを想うことは、結果として私自身を見つめ直していくことというお話が大変納得できました。



お知らせ 岩川所長の開会挨拶を、信濃教育会HP会員のページの「ブチッと研修」にアップしました。ご覧ください！

「令和8年度 教育研究所 研究員の募集」が始まります！

○応募資格

- ①5年以上の公立学校教諭経験を有し、現在引き続きその職にあること。
- ②研修後、本県教職員として教育振興のために貢献しようとする意志が強固なこと。
- ③所属学校長の推薦を得ていること。

○応募メ切 10月14日(火) (市町村教育委員会経由で県教育委員会事務局へ提出)

○入所にあたって

- ・遠隔地からの入所、通勤については、個々の状況に応じて柔軟に対応します。
- ・福井大学連合教職大学院の教職修士の取得も可能です。
- ・応募者は、自身の実践記録(日頃の授業のビデオ録画等)を撮りためておいてください。

※詳細は、各校に配布した「令和8年度 信濃教育会教育研究所 研究員募集案内」をご覧ください。

令和8年度 信濃教育会教育研究所
研究員募集案内

■1年次研究員として
テーマごとの事例研究で相互に学び合い、講師との対話等を通して、自己の課題を明確にし研究を具体化していく。

教育について議論や検討を繰り返し、希望する未来を描く

テーマ1	テーマ2	テーマ3
教師と子ども、子ども相互の関わりづくり	子どもの学びが深まる授業づくり	今日的な課題に対応する多様な学び

現場から離れて教育を見つめ直す。

■2年次研究員として
1年次の研究をもとに日々実践し、課題をもり取り、新たな時代の教育について学びを深める。

教育現場で実践を通して研究を深める。
⇒ 仲間と共に未来の教育を創造する。

◇岩川直樹所長セミナー③ ◇高柳充利セミナー

- A 9月16日(火) 16:00~17:00 講師 岩川直樹 先生
「学級づくりのプロセスを分かち合う その3」
B 10月2日(木) 16:00~17:00 講師 高柳充利 先生
「子どもの“もう1回”から考える絵本の魅力」

▶お申し込みはこちら



多数のご参加をお待ちしています！

令和7年度 信濃教育会教育研究所
岩川直樹公開セミナー③

＜講師＞
信濃教育会教育研究所 所長 岩川 直樹
埼玉大学教授

～テーマ～
学級づくりのプロセスを分かち合う その3

9月16日(火) 16:00~17:00
参加方法: 対面(信濃教育会館) オンライン(Zoom)

お申し込みは9月15日(木)まで
申し込み先: 信濃教育会館 TEL: 026-232-7169

信濃教育会教育研究所
高柳充利公開セミナー

【テーマ】子どもの“もう1回”から考える絵本の魅力
10月2日(木) 16時~17時
対面: 信濃教育会館
オンライン: 入室15時45分~

講師 高柳充利
(信濃大学准教授)

お申し込みは10月1日(火)まで
申し込み先: 信濃教育会館 TEL: 026-232-7169



世界一の歴史と人数の学校 バンコク日本人学校

バンコク日本人学校 保坂 信太郎

【バンコク日本人学校について】

バンコク日本人学校は、世界で最も古く、人数の多い学校です。その始まりは、1956年の日本大使館内に開校した「大使館附属日本語講習会」と言われていますが、戦前にも1926年（大正15年）に設立した盤谷日本尋常小学校があったようです。そして、2024年時に全校児童・生徒数は2170人と2位の上海（虹橋）日本人学校の約1000人の2倍以上の子供達が学校で勉強をしています。校訓は、「明るく なかよく たくましく」、教育目標は、「夢や希望をもって前進する子供の育成」です。このことを具現化していくために「徳育・知育・体育・国際性」に重点を置いて、日々の実践に取り組んでいます。

【現地校との交流会】

バンコク日本人学校が1番大切にしている行事があります。それが、タイ現地校との「交流学习会」です。毎年、各学年が様々な工夫を凝らして現地の学校と交流します。その中で印象的だった2つを紹介します。

一つ目は、中学1年生が現地の中学校に行った時のこと、その日が七夕ということで、一緒にタイの七夕飾りを作成したり、短冊に願いを書いたりしました。お互いの短冊に日本語とタイ語の両方で願いを書く際、学習した英語やタイ語を使ってコミュニケーションをとり、何とか完成させることができました。「英語頑張ってたよかったな」「英語をもっと勉強したいな」などと、つぶやいていました。これが本当の必要感なのかな。そう感じた瞬間でした。

二つ目は、小学3年生が現地の小学校を迎えて交流した時のことです。閉会式で相手の校長先生から、「コロナ禍でしばらくできていませんでした。前校長から、この交流会の大切さや素晴らしさを聞いてきましたが、今日その意味がよく分かりました。この交流学习会は、未来永劫続けていかなくてはならない。それくらい我が校には大切な行事です」と、お言葉をいただきました。「未来永劫」と最上級の誉め言葉をいただき、ここにいる子供達がタイと日本の懸け橋になってほしい。そう思った瞬間でした。



【全校児童・生徒が参加する運動会】

大きな学校のため、様々な活動が学級・学年単位、小学部中学部別で行われることが多いです。そんな中、昨年からスパチャラサイ国立競技場で、小学1年生から中学3年生（9年生）までが集い、運動会が開催されました。児童生徒・保護者合わせて約3000人の動きなど、種目内容だけでなく行事が安全に進むよう多岐に渡る準備をしました。その行事に実行委員として携われたことは、大変良い経験になりました。当日は、全校児童生徒で「だるまさんが転んだ」を行い、ギネス記録を更新することができました。子供達、保護者、職員、スタッフなど会場の全員が一つになった瞬間でした。



【特色ある活動（通年で行われる水泳学習）】

常夏のタイならではの取り組みとして、健やかな成長を目指し、年間通して水泳学習があります。治安の問題から、多くの児童生徒が登下校をバス通学している影響から運動不足が心配されます。その手立ての一つとして、全身運動の水泳を6月のプール開きから3月まで、1年通して行っています。温かな水の中で楽しそうに泳ぐ子供達の声が今日も校舎に響いています。

長野県小学校長会・長野県中学校長会との懇談会

7月8日

先生方の自主的学びを支えるために、校長会と教育会が連携してどのように支援していったらよいか、校長会役員の皆様と懇談を行いました。



- ・研修しようと思っても環境が整っていないと研修ができない（教職員の心身のゆとり）
- ・子どもたちと同様に、先生方が学びたいときに学べる環境をつくっていくのは校長の役目。
- ・今年度会員増が見られたある郡市教育会では先生たちの間に学ぼうとする気風ができてきていると聞かすが、学びたいことが学べる場があることが大事。
- ・県外も含めて研修に出かける雰囲気は校内でどう作っていくか校長が問われている。
- ・県や市町村教育委員会、教育会、教育センター等の様々な研修があるが、うまくミックスしたり一本化したりして参加しやすい工夫が必要ではないか。

校長会と教育会の役割は異なりますが、学びたい先生方の環境をいかに作っていくかについて、今後とも連携を深めて参りたいと思います。

信濃教育会賛助会員会との懇談会

7月22日

信濃教育会のめざす方向や入会状況について懇談を行いました。信濃教育会からは、年度年齢61歳以上の方の信濃教育会への加入について経緯と現状を説明し、年度年齢61歳の方の加入率があがってきていることから定年延長後も信濃教育会への入会を引き続きお支えいただくよう理解を求めました。横林会長からは「信教の会員が増えることが賛助会員会にもつながっていく。共々考えていく必要がある。共に変革しそれぞれの組織が充実した活動展開ができることを願っている」とご挨拶いただきました。



長野県教育委員会との懇談会

8月19日

信濃教育会からは今年度の重点事業について、県教委からは新たな教員研修のことや教育課程研究協議会の方向等について話題提供がありました。

その後、4つのグループに分かれて「A：教職員が研修意欲を持ち主体的に学べるための研修の仕組」「B：教職員がゆとりを持ち笑顔で子どもたちと向き合えるための働き方改革」について話し合いました。課題を共有し、それぞれの立場でできること、連携しながら取り組むことなどについて熱心な意見交換が行われました。



◇ 蔵書整理を行いました

7月下旬に2日間の日程で、9名の日本女子大学生の皆さんと共に蔵書整理を行いました。

当館アドバイザーの伊藤純郎先生と当館利用者の日本女子大学 齋藤慶子先生が、師弟関係であるというご縁で今回の資料整理が実現しました。

初見の利用者の方にはわかりづらかった配置を、『収蔵品目録』を元に並べ直し、照合するという作業を、暑くて狭い書庫の中で、黙々と真剣に取り組んでくださいました。

令和8年度までに、より利用しやすい形に整えられるよう、今後も整理は続きます。



◇ 令和7年度子ども絵画企画展

「学校生活の思い出」を開催しました



7月11日（金）～8月8日（金）、信濃教育博物館において企画展を開催しました。『信州子ども絵画100年館事業』の収蔵作品の中から昭和62～令和5年度の学校生活を描いた作品195点を展示し、308人の方にご来館いただきました。

＊来館者の感想より＊

- ・大学生になって約10年ぶりに小学生の時に描いた自分の絵を見てとても懐かしかったです。絵を見て小学校自体のことも思い出して、自分はあの場所が本当に好きだったと実感しました。

・どの絵も子どもたちが一生懸命描いたことが伝わってきました。ありきたりの言葉ですが、とてもよかったです。見に来たかいがありました。

◇ 移動展のお知らせ

信濃教育会生涯学習センターにおいて、令和6年度第38回「今を生きる子どもの絵」永年保存作品を展示します。ぜひお出かけください。

また、展示終了後は11月1日から6回にわけて信濃教育ホームページに作品の画像を掲載します。



と き 10月1日（水）～7日（火）

ところ 信濃教育会生涯学習センター（安曇野市豊科高家796-3）

その他 期間中無休・入場無料

待ってました！！

「会員のページ」にコンテンツが増えました！



現在、信濃教育会HP【会員のページ】にて過去に行われたセミナーや学べるコンテンツなどを用意しています！
当日参加できなかった方や、復習に活用したい方ぜひご活用ください！



【会員のページ】で待ってるよ～！



「ブチッと研修」のページでは、インタビュアーのかしわ君が教育研究所所長の岩川直樹先生に色々質問しています！岩川所長のことを知るチャンス！ぜひご覧ください！

信濃教育

予告



テーマ 第一三九回 信濃教育会総集會

「実がいっぱい」「大きい」猛暑だった夏休みが明け、ヘチマの観察に行った子どもたちは驚きの声を上げました。長さを測る子、一番大きい葉や実を探す子、実の数を数える子、その時の様子を絵に表すことにしました。晴香さんは、すぐに自分の顔より大きい実がいくつもできていたことにびっくりしている自分を描きたいと思ったそうです。画用紙には、自分の一番描きたい物を大きく描きました。

遠近を表そうと、手前の葉は大きく、後ろの葉は小さく描きました。一学期の色作りの学習を生かして、青と黄の絵の具を混ぜ、様々な緑色を作り出しました。そして何度も色を重ねて、色をつけました。「思った通りに描けた」と晴香さんが満足しているこの作品は、表情が豊かで、やわらかい色に仕上げられていて、目にした人を優しい気持ちにさせてくれます。

指導者
立石 麻里子
(箕輪中部小学校)

100年館の絵

令和6年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「びっくり 大きなヘチマ」
白鳥 晴香（箕輪中部小四年）

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026(232)2470
URL <https://shinkyo.or.jp> ✉ shinkyo@shinkyo.or.jp
編集兼発行人／大日方貞一

